

令和4年度 第4回能勢町地域公共交通会議 議事録

開催日時	令和5年3月2日(木) 午前10時00分～午前11時45分
開催場所	淨るりシアター 小ホール
出席委員 (17名中15名)	葉 健人、酒井 敏一、中西 克之、野津 俊明、石崎 宏司、森下 保夫、奥畑 司、池田 和幸、山本 守、看舎 邦亮、川人 正秀、藤原 伸祐、百々 孝之、寺内 啓二 猪井 博登 (Web 参加)
欠席委員 (2名)	暮部 光昭、横井 琴江
傍聴者	4名
協議事項	(1) 乗合タクシーの今後のスケジュール(案)について (2) 妙見口能勢線において想定される代替案について (3) その他
議事録	<p>■開会</p> <p>■資料確認、傍聴報告</p> <p>■委員の出席状況の報告</p> <p>■会長挨拶</p> <p>会長) 本年度最終の会議となる。本日は、委員がオンラインによる出席ということで、進行については、委員を指名する。</p> <p>委員) 本日は、乗合タクシーが運行を開始してから約半年が過ぎたところで、振り返る良い機会になると思う。ただ、新しい公共交通を導入した場合、序盤はまず人が慣れるということと、半年が経ち、慣れたとしても外出が減るような時期になるので、思ったとおりの利用とはならないが、半年の段階でひとまず運行状況と、アンケート調査を実施していただいたので、今後についての議論ができればと思う。もう一点は、以前から議論をしていた妙見口能勢線について、どのようにしていくかということ。二点とも重要な議題である。時間が限られているが、充実した議論となり、議事が円滑に進められるように努める。</p> <p>■議題</p> <p>報告事項</p> <p>(1) <u>乗合タクシーの運行状況及びアンケート調査結果について</u></p> <p>(2) <u>妙見口能勢線利用者アンケート調査結果について</u> ※事務局より資料1、2の説明</p> <p>協議事項</p> <p>(1) <u>乗合タクシーの今後のスケジュール(案)について</u> ※事務局より資料3、5の説明</p>

委員)	ご質問、ご意見があればお受けする。
委員)	前回の会議で、乗合タクシーの本格運行に向けて、現在の運行エリアのままで運行する曜日を定めない案と、運行状況を鑑みて運行エリアの見直しする案の2案について、検討を行うとのことであったが、検討状況はいかがか。
事務局)	前回の案として、エリアの曜日に関係なく行けるようにする案と、走っていないエリアに運行エリアを拡大する案を提示していた。資料にも記載しているが、実証運行期間を延長したいと考えており、利用状況が少ない中、モニタリングを引き続き実施する必要がある。また、妙見口能勢線の検討も進めている状況である。当初予定である本格運行としていた7月には、この2案のいずれかを導入するところまで行ける状況ではない。
委員)	客観的に見て、1便当たりの利用者数を見ると、天王地区・岐尼地区の一部では1.00～1.67人/便。久佐々地区の一部・田尻地区でも2人/便以上利用されている便はこれまでで皆無なので、4人乗り車両1台でコースを統一しても、対応できるのではないか。
事務局)	現状、運行地区によって、利用者数にばらつきがある状況は理解している。今後の運行の改善についての検討・判断材料になってくると思う。先ほど申し上げたとおり、直ちにサービス改善について進めることは難しい。
委員)	実証運行の期間を延長するとのことだが、今までどおりの実証運行を延長しても効果があるのか疑問である。実証実験期間中に、いろいろな方法を試すのが本来の実証実験ではないか。住民の声を聞いて実際に感じることは、停留所が遠いことも利用が少ない要因ではないか。そういった視点も含めて、実証実験の内容を変えるべきではないか。
事務局)	運行内容の改善策として、当日予約を可能にする案を考えている。委員がおっしゃられたように、実証実験の中で変えていくことは良いと思うが、直ちにエリアの拡大、運行日の一本化などの対応は難しい。
委員)	サービスはできるだけ拡充したほうが良いが、実際に導入するまでには多くの準備、広報する時間も必要になる。実証実験期間を延長する形になったので、できるだけことは対応したい。エリアの拡大、運行曜日の一体化については、この後に協議する予定である妙見口能勢線の見直しに影響がある東地域との兼ね合いもあるので、その結論と併せて考えさせていただきたい。まずは、当日予約対応と停留所の増設（令和4年（2022年）11月実施）で様子を見たい。その間も、ご発言いただいたような改善

	<p>案については、事務局で適宜ご検討いただきたい。他にいかがか。</p>
<p>委員)</p>	<p>先ほど、委員もおっしゃっていたが、実証実験期間を延長しても、利用者はなかなか増加しないと思う。その原因がアンケート結果に表れている。自分で自動車を運転できる方が多い。町内では、1人1台の自動車を所有している状況であり、自動車に頼らない生活はどうすれば良いかという論議を能勢町がしていないのではないか。「能勢町人口ビジョン（平成28年2月 能勢町）」の36ページに自動車保有の状況として、「本町の自動車保有車両数は10,521台であり、1世帯当たりの台数は2.8台となっています。近隣市町に比べると多く、各世帯で重要な交通手段となっているといえます。」と記載がある。このような状況になった原因は、バスの運行本数が少なくなったからである。私の近所の方も阪急バスの交通系ICカード「hanica」を利用していたが、運行本数が少なくなったからやめたということである。本数を増やすにはどうすれば良いかということも併せて、前回の会議で文書発言や、この会議の中で何回も発言している。阪急バスの委員が、西能勢線を見直す案として、例えば山下駅～上杉口間に路線を短縮させて、運行距離が短くなることで、運行本数を増やすことも考えられるとおっしゃっていたが、上杉口から町内の移動をどうするかは能勢町が考えればよい。運行本数を増やせるならどれくらい増やせるのか、能勢町から打診しなければならない。阪急バスも利用者数が増えれば、運行本数が増やせるということで、相乗効果が期待できる。この実証実験期間で、乗合タクシーの利用者をどれだけ増やすかを追求するのではなく、いろいろな方法を試して、その結果を住民に提示して、アンケートを取るなどすれば、委員のおっしゃっていたことと合致する。</p>
<p>委員)</p>	<p>乗合タクシーの実証実験は、単に利用増加のために行っているわけではなく、町民の皆さんが自由に移動できるような手段の一つとして位置付けて、運行している。本会議の資料によると、乗合タクシーから阪急バスに乗り継がれた方は一定数おられるので、その点については効果があると思うが、現状、それだけでは阪急バスの利用は大きく伸びていない状況である。それに対しては、全国のいろいろな所で同様の問題を抱えている。運行本数を増やしたら利用が増えるか、あるいは利用が増えたから運行本数を増やすのか、これは卵と鶏の関係である。ただ一方で、いわゆる成功している地域と言われる所では、住民の皆さんの路線バス等の公共交通を維持しようという強い意志のもと、利用しているケースが多々ある。町側で働きかける部分もあるし、乗合タクシーも含めて、利用が減少している状況において、需要が見込まれづらいところにそれなりの投資をすることは、経営判断として難しい側面もある。これは、誰の責任というわけでもないが、町民のみなさん、利用者、交通事業者が歩み寄る形で進めなければならない。アプローチの方法はいろいろあるかと思うが、私の理解としては、まず乗合タクシーをバスに乗り継ぐための手段として使っていくために、委員からご発言のあったように、乗合タクシーのサービスレベルを向上させることは、必須である。この会全体としても、乗合タクシーの利用を増やすということは、あくまでも目標の一つであって、最終的には、自家用車に頼らずとも移動できるような仕組みづくりを考える方向性で進めたいと思う。</p>

<p>委員)</p>	<p>利用者が思いのほか伸びないというのは、車を利用する方が多いので当然といえば当然と思う。当事者意識として乗合タクシーを捉えられないからだと思う。いずれは、自動車を運転ができなくなるので、少数であっても、利用される方があるという点は大事にしていくべきである。単に、利用促進の呼びかけだけではなく、使ってみて便利であるという積み重ねがなければ、利用者は増えないし、運行を継続することができない。アンケート結果にもあったが、停留所が遠い、町外へ行ってほしい等の希望について制約があるので、具体的に実現するのは難しいとは思いますが、できるだけ近づけていく努力はできると思う。アンケート調査について、実際に利用された方のご意見についてはどのように集約されているのか。</p>
<p>事務局)</p>	<p>今回のアンケート結果は、利用されていない方の意見となっている。利用されている方は、新規で乗車されるときに車内でアンケートを取っている。今年度の9月と12月に開催した地域公共交通会議において、報告はさせていただいている。満足度としては、今後も利用したいと回答していただいた方が多く、継続的な利用も多い状況である。また、乗合タクシーを利用した、川西能勢口駅へのモデルケースを示した内容を「広報のせ(令和5年2月号)」に掲載し、利用促進に努めている。近所の方から教えてもらって、初めて利用した方もおられる。新規利用人数は、数としては少ないかもしれないが、利用していただいた方には、継続して利用したいという声を多くいただいている。</p>
<p>委員)</p>	<p>実証実験期間が延びたので、やれるだけのことはやっていきたい。町側でもできること、できないことがあると思うが、今後も検討の余地はあると思う。住民を代表して来ていただいている委員の方にも、積極的に利用促進の呼びかけをしていただきたい。サービスの完璧ではないかもしれないが、互いに歩み寄っていただきたい。今回、乗合タクシーの停留所を11月に増設したということで、利用施設に関しても、施設側からお声かけがある場合もあると思う。参考としてだが、例えば、停留所を設置している施設から協力金を出すなどの仕組みを取っている地域もある。施設側からの働きかけをしていただくことで、施設利用者が乗合タクシーを利用していただいて、地域全体の公共交通の維持に関わるような協力をいただくことも一つである。限られた資源を最大限に生かすには、各関係者の協力が必須である。実証実験期間中にできるだけのことをそれぞれの立場でしていただき、本格運行に移りたい。</p> <p>他に何かあるか。</p>
<p>委員)</p>	<p>能勢町の場合、温室効果ガスの排出量は運輸部門が一番多いということで、前回の文書発言で言ったように、バスやタクシーを公共財として、どれだけ大切に使うかが重要である。今は、自動車に頼っている生活だが、高齢になると自動車を運転できなくなる。そのときには、既に体力だけではなく骨も弱くなっていて、骨折しやすくなる。健康を維持しながら、車を運転できなくなったときでも、自分自身で歩くことができる体を作っておかなければならない。能勢町では、大阪大学とタイアップして</p>

	<p>健康長寿事業「のせけん」を実施している。同時進行でやっていく方法を考えれば良いのでは。私の場合、今は孫の保育所の送迎だけに自家用車を使っている。孫の保育所生活が終わった時のことを考えて 50 年ぶりに自転車に乗り出した。それで体も鍛えられる。公共財として、バスやタクシーをどれだけ豊かに使いこなしていくか、能勢町として考えるべきだと思う。それを何回も言っているが、乗合タクシーのことがばかりやっているから利用者が伸びない。別の案を提示しないといけない。事務局として努力しているのはわかるが、電動自転車という資源もあり、便利になっているので、タイアップして公共財としてバスやタクシーをどう利用するか考えなくてはならない。</p>
委員)	<p>今の発言はまさに重要なことである。今回の運行実績等の報告については、あくまでも利便性の高い移動を追求するという点で、報告いただいている。公共交通を維持、利用促進するという点では、健康的、環境的な意味もあるが、高齢者が安全に移動できるという面もある。これに関しては、町内に健康を主に扱う部署、環境の部署、安全に関しては警察と連携していただいて、公共交通の利用促進、維持の重要性を共有していただき、連携しながら総合的に取り組む必要があるという主旨の発言だったかと思う。ここについては非常に重要な観点である。すぐに部署を越えた協働は難しいかとは思いますが、少しずつ進めていただきたい。</p>
委員)	<p>今日のこの会議も宿野の奥の方で傍聴に行きたいが、帰りのバスがないので行けないという方がおられた。以前、阪急バスの方が、上杉口までなら本数を増やせるということだったので、その後をどうするか町として真剣に考えないといけない。高齢になって自家用車に頼っていたら事故も心配である。高齢者も使えるようなシステムを真剣に考えていただきたい。乗合タクシーは伸びていないので、その上で考えなければならない。</p>
委員)	<p>実際に利用している方の声は、できるだけ聞いていただきたい。いろいろな調査して、実証実験の案も進められていると思う。結果としては、利用者が少ないという状況だが、私の近所（東地域）でも、町外へ通勤・通学するのに阪急バス（妙見口能勢線）を利用している人はほとんどいない。理由としては、帰りの夜の便がなくなってきたためである。現在、実際に利用している人は、毎日利用していない。だいたい、病院か施設に行く方たちである。利用者が少ない状況で、お金がかかるので、運行本数を減らさざるを得ない事情はわかるが、運転免許証を持っていない人が、なんとかバスに乗りながら移動している状況である。そこで、乗合タクシーを利用したいという話になるが、拠点などの問題もある。不便でも、阪急バスを利用している方たちの状況を聞いていただきたい。</p>
委員)	<p>乗合タクシーについて何かあるか。</p>
委員)	<p>基本的に、この問題は阪急バスの減便から生じていることであり、その減便は能勢町</p>

の人口減少から来ている。これから運転免許証を返納される方も増えるので、それまではこの制度を維持しないとイケない。前回の会議の中で、乗合タクシーの運行状況について事務局から報告があったが、満足度を見ると、利用されている方はそれなりに評価されている。結局、利用しないとイケない住民の絶対数がどれくらいいるのかわからないが、来年度でこの問題が解決するということではなく、この交通問題は続いていくと思う。それは、人件費の問題が大きい。ある政党では国から基金を作っても、バスや鉄道の維持をするべきだと言っているところもある。改善を進める中で、制度を維持して皆さんの声に応えていく形に持っていけないと、住民の生活のレベルの質が下がっていくと思う。

こういう取組をすると、費用対効果についていろいろな声も聞こえてくるかと思うが、住民の生活のレベルの質に関わってくる問題なので、粘り強く取り組んでいただきたい。

委員) 高校生がテスト期間中に山下駅から松風台までタクシーを使って帰宅していた。バスの本数が少ないので起こっていることだ。国土交通省が、地域の公共交通に求められる役割ということで案を出している。自主運行バス、交通事業者が運行するバス、これに対して、地元企業や地元住人が協賛金や町が補助金を出すことも考えるべき。能勢町は、乗合タクシーのことばかり論議しているが、いくらやっても利用者が伸びないということは、前から言われていることである。次のステージに入らなければいけない。

会長) 交通問題については、生活の質や手段の問題であると認識している。我々は、公助ということで、乗合タクシーの運行や町内で路線バス（西能勢線・妙見口能勢線）を運行するバス事業者に補助金を支出することに努めている。その一方で、共助ということでは、町内では福祉有償運送や交通空白地有償運送という制度があり、公共交通だけでは担えない部分を担っていただいている。公助だけでは、全てを解決するのは無理という前提で、議論させていただいている。したがって、自助・共助・公助が一体となって、それぞれ連携しながらやっていかないと、公助だけで全てを解決する問題ではない。もちろん生活の質や手段の問題については、引き続き検討したい。

委員) 実証実験として運行しているので、元に戻して一から話をするより、いっそのことやってみてもらって、課題について話をしないと具体的に話ができない。現在の生活様式から見て、運転免許証を返納することができない方がほとんどだと思う。差し迫って自分のこととして受け止められないのは、仕方がないことだと思う。いつかは、運転免許証を返納しなければならないときが来て、そのときに移動手段が何もなければ生活できないので、備えという意味でも少しずつ改善すべきである。民間だと採算がないと成り立たない。乗合タクシーも税金を投入して運行するため、限界はあるが、少しでも利用者の意見を拾っていただいて、その中で可能な方法を検討していただきたい。一般的な要望だが、行きたい所へ行きたい時にということに近づけるように知恵を出し合っていったらどうか。地域性が違うので、目標の達成率について一律に論

<p>委員)</p>	<p>議するのは違うかなと思う。数字だけで一喜一憂しないほうが良い。</p> <p>申し上げたいことは、委員と同じ。委員が指摘されたように、地域の交通は地域の皆さんと協働して作っていくことは正しいことではあるが、大きく変えていかななくてはならないところもあり、継続的に議論していくところである。公共交通の取組の先進地と言われている富山市でも、なかなか実現していない状況である。委員のご発言のように、高齢者を対象に hanica はんきゅうグランドパス(高齢者専用定期券)で共同出資するという形もあると思うが、その方法が正しいかどうかは、そこまでの確信が得られていない。今回の視点の一つとして、地域で生活されている方にとって、乗合タクシーや阪急バスが稼働していることが、地域のセーフティネットになっている。一方で、委員がおっしゃっていたように、使いやすくすることは今後も検討し続けなくてはならない。実験実験期間が延びたとは言いながらも、今後とも皆さんと検討していく予定だが、それでも人の行動は急には変わらない。しかも、何回も運行内容を変更するごとに、行動も変えていかななくてはならない。まとめてどこかのタイミングで、春から夏にかけての皆さんが出かける時期にどうなるかも見る意味で、少なくとも予約を拡大するなどの対応をして、継続して状況を見させていただく。委員がおっしゃっていたように、乗合タクシーを運行したことによって、何が維持できたかを物語として継続的に記録していかないと、税金を出して運行することについて、皆さんが納得できる理由付けができない。皆さんの意見にはうなずくところが多く、もっと検討すべきところはあるが、ひとまず今回は予約受付の変更と、もう少し観察させていただくということで、ご了承いただきたい。</p>
<p>委員)</p>	<p>私もこの案でいくしかないと思うが、交通に関わる方の分科会を開催してはどうか。例えば、国崎クリーンセンター(川西市国崎)ではいろいろな催しをしているが、乗合タクシーで行けない。分科会を開催し、行きたい時に使えるようなシステムを作ることはできないか。</p>
<p>委員)</p>	<p>能勢町の地域公共交通について、乗合タクシーや他の交通空白地有償運送でカバーしきれないところなど、いろいろなシーンが考えられると思うが、それについて情報交換や議論する場を作ってほしい。</p>
<p>委員)</p>	<p>分科会については、事務局で検討いただきたい。先ほど委員がまとめていただいたとおり、乗合タクシーについてはこの案を進めていきたい。</p> <p>(2) <u>妙見口能勢線において想定される代替案について</u></p> <p>※事務局より資料 4-1、4-2、5 の説明</p>
<p>委員)</p>	<p>現実的には案 4 がメインで、案 5 が次点かと考える。皆様におかれては、冒頭の説明にあった利用者アンケート調査結果に基づき、現状の生活を損ねないような案 4、</p>

	<p>案5をどのようにサービス改善していくかを重点に置いて議論すべきと考える。それを含めて質問、意見があればお受けする。</p>
委員)	<p>乗合タクシーを運行するにしても、妙見口駅へ行けないと利用が低下する。案5にしても、夕方の便がないのはいかがなものか。乗合タクシーの運行時間を延長する必要も出てくる。案3では、朝3便ぐらいはワンボックスで定時定路線運行し、ほかの時間は乗合タクシーとして、乗合タクシー車両で運行することも一つの案として、提示できるのではないか。</p>
委員)	<p>朝や夕方～夜にかけて、通勤・通学に利用する方が一定数いらっしゃるので、セダン型では乗り切れないことも含めて、運行する車両をワンボックスにすることが可能かどうか。</p>
委員)	<p>案5は、朝の便については阪急バスによって中型バス～大型バスで運行し、昼の時間は乗合タクシーが運行すると理解していた。それに加えて、案4と案5は東地域が特に多いと思うが、交通空白地域で乗合タクシーが運行することをひとつの要素としているのではないか。</p>
事務局)	<p>案3で朝だけ定時定路線で運行してはどうかということであるが、資料のとおり案4、案5でも、「朝・夕を乗合タクシーが路線バスのように定時定路線型などで運行する方法も考えられる」と思っている。ただ、整理として案5について、朝だけ阪急バスが3便運行したとしても、今よりも経費の削減は見込まれるが、それでも、年間で約970万円の運行経費が必要ということと、昼間と夕方の移動手段を確保する必要があるので、運行経費が増える可能性がある。最も運行経費の削減が見込まれて、利便性も確保できるということで案4を「○」という評価にしている。</p>
委員)	<p>案4に関しては、「乗合タクシー」と表記しているが、朝夕に関しては路線バスのように運行することもオプションとしてあるということなので、今の利用者の希望に沿える運行となっているという提案であった。</p>
委員)	<p>先ほどの議題で、妙見口能勢線の話を出してしまったのは、乗合タクシーを含めて、活用がしにくい状況で、いろいろな不安があったので発言した。案4の「基幹交通を西能勢線のみを集約」というのは、東地域の住人からは全く意味のないことである。生活状況をもっと知ってほしい。</p>
委員)	<p>案4がベターかと考える。これをもとに話をするのが良いと思う。町の財政状況のことも、妙見口能勢線の運行に係る補助金のこともよくわかってはいないが、検討いただいた上で、案4を提案していただいたので、これをたたき台にして話をしないと、それぞれの希望を言っても話はまとまらない。分科会がどうこうという話でもない。町の財政状況はわからないが、厳しいなら厳しいとはっきり言ってい</p>



	<p>ただいて、中身の話をすべき。今日のスケジュールでは、妙見口能勢線の見直し案を絞り込むということで、見直し案を決定するのは12月のため、時間はある。今後、検討を進めて案4-1か案4-2等が出てくるかわからないが、前向きな論議をするべきではないか。</p>
委員)	<p>案4は、基本的には乗合タクシーが基幹交通につながるということであった。妙見口駅には行かないのか。</p>
委員)	<p>これは妙見口駅に行くという書き方だと思うが、どうか。</p>
事務局)	<p>通勤・通学利用の対応は、妙見口駅まで行くことも含めて、検討したいと考える。</p>
委員)	<p>「第6次能勢町総合計画（令和4年（2022年）7月 能勢町）」を読むと、能勢の周辺にファンがいて、能勢に来たいという人がたくさんいる。そうすると乗合タクシーだけで考えてよいのか。妙見口駅からハイキングがてら歩く人もいる。そういう人たちはバスがないとなると、能勢ファンが離れると思う。それは困る。そういう意味でも案4で絞って良いのか。</p>
事務局)	<p>総合計画の中でも、能勢ファンや学校の話が記載されているので、その点については重要な指摘だと思う。しかし、まずは町内での移動手段をいかに確保するかという観点から乗合タクシーの議論をしている。まずは、町内の交通インフラを作ることが重要である。その次の段階として、町外からの流入なども考える必要がある。一足飛びに路線バスや乗合タクシーだけで解決する問題ではない。一つ一つ解決していきたいと考える。</p>
委員)	<p>前から言っているが、能勢町と豊能町は過疎地域指定となった。国からの補助もあるだろうから能勢町と豊能町で話をし、二つの町で運行できるような交通システムは考えられないか。その上で、能勢ファンも含めて、公共交通はなくなってしまうと衰退してしまう。能勢ファンが能勢に住んでくれたらと考える。</p>
委員)	<p>今回は、おおむねの方針だけ決めて、妙見口駅につながる、あるいは、朝・夕の移動を確保しなければならない等の詳細な検討について、地元での意見交換会でご意見を取り入れながら、より良い施策を限られた財源の中で実施させていただきたい。本日は、おおまかな方針を中心に議論すべきと考える。これまでいただいた意見については、案4を解決するために事務局でも検討させていただきたい。</p>
委員)	<p>案4に絞った議論をするのは反対。案5も検討すべき。</p>
委員)	<p>失礼した。案4と案5を中心に進めていきたい。ここで、阪急バスの意見をいただきたい。</p>

<p>委員)</p>	<p>案5について。前回の第3回地域公共交通会議で、朝・夕だけ路線バスを残しても経費削減にはつながらないと、朝だけなら少しは削減できるかと発言したが、費用削減するためにはと発言したことが、文字になってしまうと、かえってややこしくなるので申し訳なかったと思う。第2回地域公共交通会議において、妙見口能勢線の利用実態調査結果が出た際に、1便当たりの利用人数が3~5人というところで、本来、バス車両が輸送分担をするような路線ではないと発言した。妙見口駅につなぐ、つながらないという話は、これから議論されると思うが、案4のような乗合タクシーを活用して、東地域の公共交通をどのように守っていくのかということと、現在は路線バスの妙見口能勢線があるために、乗合タクシーで東地域から西地域へ出てこれない地域がたくさんあるというところを考えると、制約を外れて、東地域の方が乗合タクシーで西地域の役場（宿野）やノセボックス（栗栖）に移動できるというメリットもある。私は、案4を中心に考えて、妙見口駅につなぐ方法を相談するのが良いと思う。今後は、乗合タクシーを含めて、町内の移動をしやすくして、加えて、山下駅へ路線バスでうまく出ていけるようにしてはどうか。私も能勢町から住民が不便だからと言って、出ていくことは好ましくないと思う。交通が便利になることによって、人口がまた増えるような相乗効果につながるような交通体系に発展していければと思う。</p>
<p>委員)</p>	<p>事務局にお伺いするが、案4を進めるという話と案4と案5を並行して進めることは可能か。</p>
<p>事務局)</p>	<p>可能である。住民の皆様にご説明しながら、意見をお聞きして、どのような案が適しているのが検討したい。</p>
<p>委員)</p>	<p>それでは、この会議の場としては、案4と案5を中心に、朝・夕における妙見口駅までの運行について、地域の住民の皆さんに意見を伺いながら、詳細な検討を進める。よろしいか。</p> <p style="text-align: center;">（異議なし）</p> <p>今回は、妙見口能勢線見直し案の方針を決定した。今後も引き続き協力をお願いしたい。それでは次の議題に移る。</p> <p>(3) <u>その他</u></p>
<p>委員)</p>	<p>この3月で委員の交代があると思うが、その際に公募委員を増やしてほしい。西能勢線の減便により影響がある宿野の方からも一人入れてほしい。委員は区長会の総代表として参加されていて、たまたま東地域から来られている。次の区長会の総代表は西地域の方に移るので、東地域の住民意見が反映されなくな</p>

	<p>る。東地域の区長会の代表をもう一人参加できるようにしてはどうか。傍聴したいが公共交通の関係で来れない方や傍聴に来られた方にアンケートを取って意見を聞いても良いのではないか。</p>
委員)	<p>公募委員の人数、以前に意見いただいた女性委員の話も含めて、来年度の公募委員については、東西地域のバランスなど検討いただきたい。</p>
事務局)	<p>今年度の会議は、本日で以上となる。来年度も、引き続きよろしくお願ひしたい。次回会議については、開催前に改めて日程調整をさせていただく。また、人事異動などにより委員の変更等あれば、事務局に連絡をお願ひしたい。</p>
委員)	<p>前回の議事録に、私の提出した文書発言のことが記載されているが、会議資料としての記録がない。文書として提出しているのので、会議資料として掲載いただきたい。</p>
事務局)	<p>委員から資料を提供いただく場合、会議の日程決定時に、資料の提出期限を通知している。提供したい資料がある場合、事前に事務局に提出いただいて、議長に相談して取り扱いを検討することが、以前の地域公共交通会議の場で決まっている。前回の v 委員の資料は、提出期日を過ぎていたこと、文書発言としての取り扱いだだったので当日配布は行ったが、会議資料として公開をする予定はない。</p>
委員)	<p>資料の提出期限終了後に、私が参加した会合の内容も含めて紹介することは、事前に事務局に確認し、正確を期すために文書発言とした。その内容を資料として議事録に載せるのは当然である。</p>
委員)	<p>今の段階では共通の認識ができていないので、来年度以降に向けて文書発言の取扱いについて、規約等に記載する必要がある。現状の認識は、議事録の中に発言録として残すこととして事務局としては捉えているので、不十分なことであれば議事録の確認を皆さんにお願いしているのので、その段階でそごがあったことをお伝えいただくべきであったと思う。ただ、ここに関しては共通認識がなかったという事故のようなものとして、次回以降、規約等でのルール変更は可能だと思うので、厳重に取り扱いたいと考える。</p> <p>・<u>閉会</u></p>
委員)	<p>それでは、進行を会長にお返しする。</p>
会 長)	<p>今年度の会議は本日で終了となるが、公募委員として約2年間、貴重な意見をいただいた委員・委員におかれては、任期満了に伴い今回をもって退任される。御礼申し上げます。</p>

	<p>それでは、本日の能勢町地域公共交通会議は、これをもって終了させていただきます。</p>
--	--

以上